

## 南信州地域における地域づくり（2）

### ～南信州地域西部の阿智村の取り組みについて～

公益財団法人中部圏社会経済研究所 企画調査部長 松田 直己

#### 【要旨】

- ◇当財団では、2022～23年度事業として「中山間地域の持続可能なまちづくり・活性化に関する調査研究」に取り組んでいる。この研究では、中部圏のリニア中央新幹線中間駅（長野県駅・岐阜県駅）およびその周辺地域として、新しい国土形成計画等の考え方も意識しながら、アフターコロナ・リニア中央新幹線開通後の中山間地域のまちづくり・活性化に関する視座提供を目指している。
- ◇人口減少、少子・高齢化の中での地域のサステナビリティが大きな課題であるのはこの地域も例外ではなく、リニア中央新幹線の中間駅から少し離れた地域では、駅周辺と比べ、おかれる状況や条件・開通インパクトも異なるため、対象地域でのヒアリング等を実施しつつ、地域の期待と課題を整理したいと考えている。
- ◇前回レポート（vol.224）では下伊那郡根羽村の取り組みについて紹介したが、今回は下伊那郡阿智村の観光を軸とした地域づくりの取り組みについて、熊谷秀樹阿智村長へのインタビューを踏まえて紹介させていただく。  
昼神温泉、花桃の里、星空観賞といった観光資源をどう生かすのかを、地域住民と主体的に共有し、民間の力を引き出しながら地域づくりやプロモーションを実施しているところが特色であり、「リニア中央新幹線開通時代につなげる地域づくり」として注目していきたい。

## 長野県下伊那郡阿智村の取り組み

### （1）阿智村の概要

長野県下伊那郡阿智村は、南信州地域の南西部に位置し、リニア中央新幹線長野県駅予定地（飯田市）から約20km程度（阿智村役場まで）の位置にある。名古屋・岐阜方面からは中央自動車道恵那山トンネルを経て、また同じ長野県の本巣地域からは国道256号線を経て最初に入る南信州の玄関口となる、村の面積の約98%が森林の村である（図1）。人口は10年前は6,700人を超えていたものの、最近では6,000人程度と1割程度の減少となっている（図2-1）。また、時期によって人口が社会増<sup>(※1)</sup>となっている年もあるものの、傾向的

には社会減が続いている（図2-2）。

阿智村は、県歌「信濃の国」にも「尋ねまほしき園原や」と歌われた園原の花桃の里や、「飯田・中津川間を結ぶ予定であった国鉄中津川線（1980年に工事凍結）の建設工事中に湧出し、2023年には開湯50周年を迎えた昼神温泉、そしてここ最近では環境省が実施している全国星空継続観測で、「星が最も輝いて見える場所」の第一位に認定された星空観賞等、観光資源豊かな地域であり、その地の利を生かした取り組みが進められている。また、観光だけでなく、農業や林業、社会教育やまちづくり推進等さまざまな分野において、法人設立を通じて事業活動を進めることにより、「阿智村の元気のしくみ」を構築している。

(※1) 社会増減は転出入による増減、自然増減は出生・死亡に伴う増減。

今回は昨夏実施した熊谷秀樹阿智村長へのヒアリングを通じて、阿智村が進める観光を軸とした

取り組みの特長や課題認識などについて紹介していきたい。



図1 阿智村の位置（阿智☆屋神観光局パンフレットより抜粋）

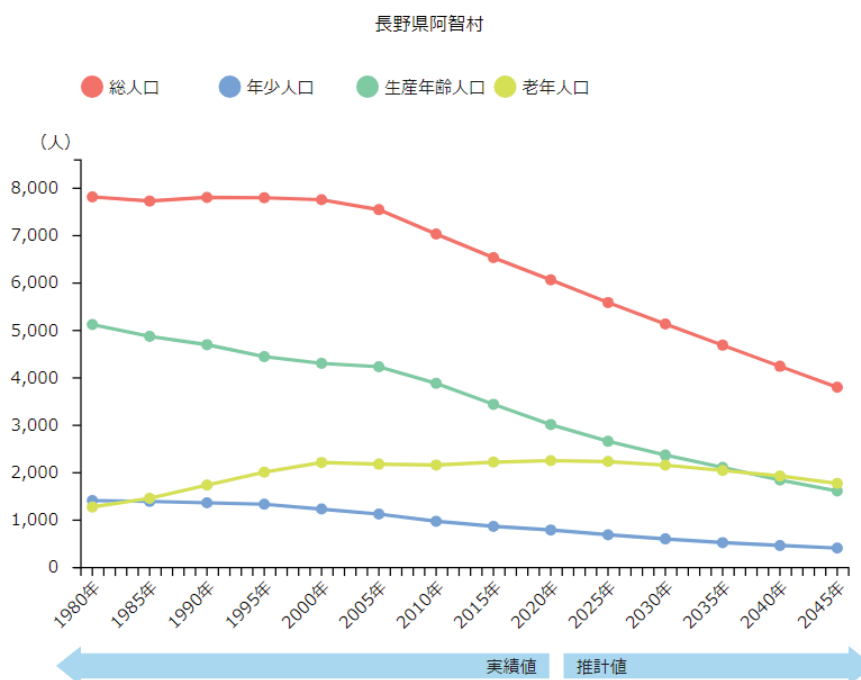


図2-1 阿智村の人口推移（RESASより）

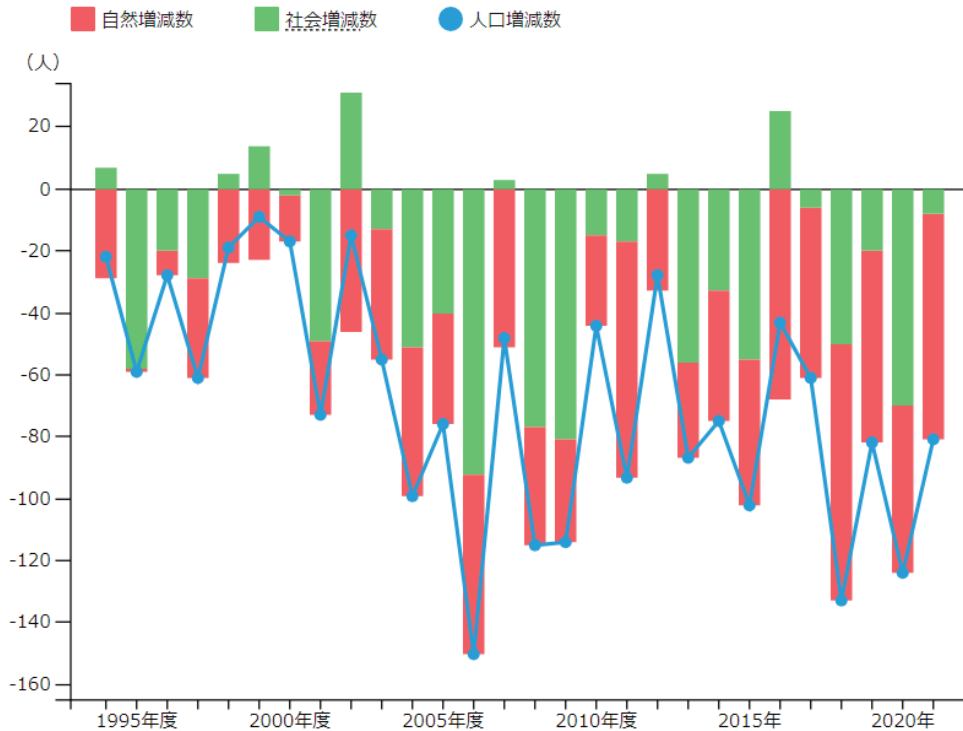


図2-2 阿智村の人口-自然増減・社会増減 (RESASより)

(2) 阿智村への集客概況

阿智村では、コロナ禍前では約130万人の入込客があった。このうちおよそ半分の60万人程度は屋神温泉への訪問者であるが、もともと花桃で有名であった園原地区における入込客数が近年では50万人近くに達しており（最多は2018年で約48万人）、コロナ前の数年で急激に増加した。（図3）

また、どの地域から客が来ているか（発地別）

の推移をパーセンテージで見ると、阿智村はこれまで中京圏からの入込が半分以上を占めていた地域であったにもかかわらず、コロナ禍直前では関東圏・関西圏からの観光客の比率が伸びていることが分かる（コロナ禍に入ると、さすがに外出の近郊化が影響し、県内や中京圏の比率が伸びることとなった）。より遠方からの入込客数の増加は、リニア中央新幹線や高速道路といった交通ネッ

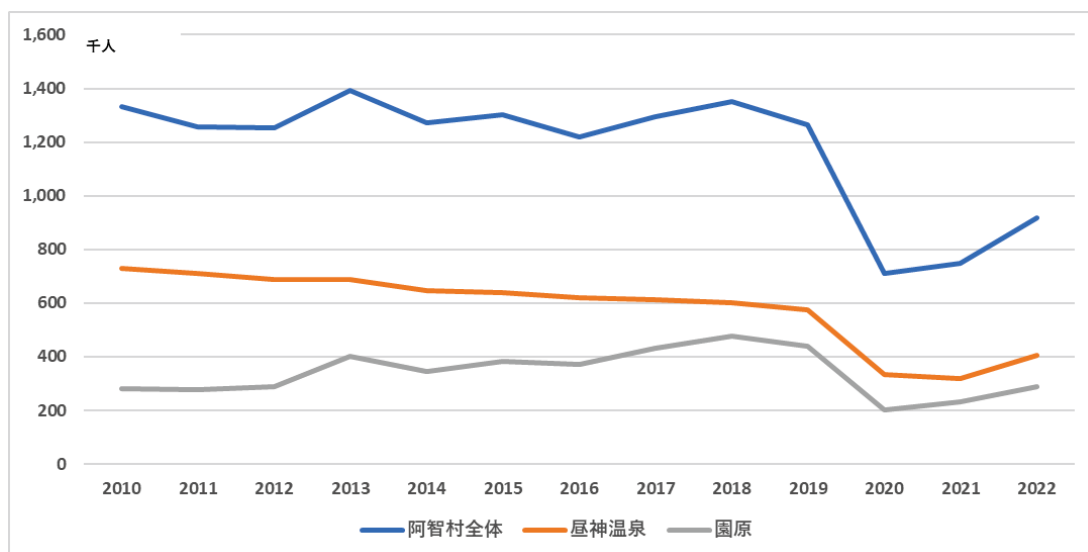


図3 阿智村全体と主要観光スポットの入込客数の推移 (阿智村資料より筆者作成)

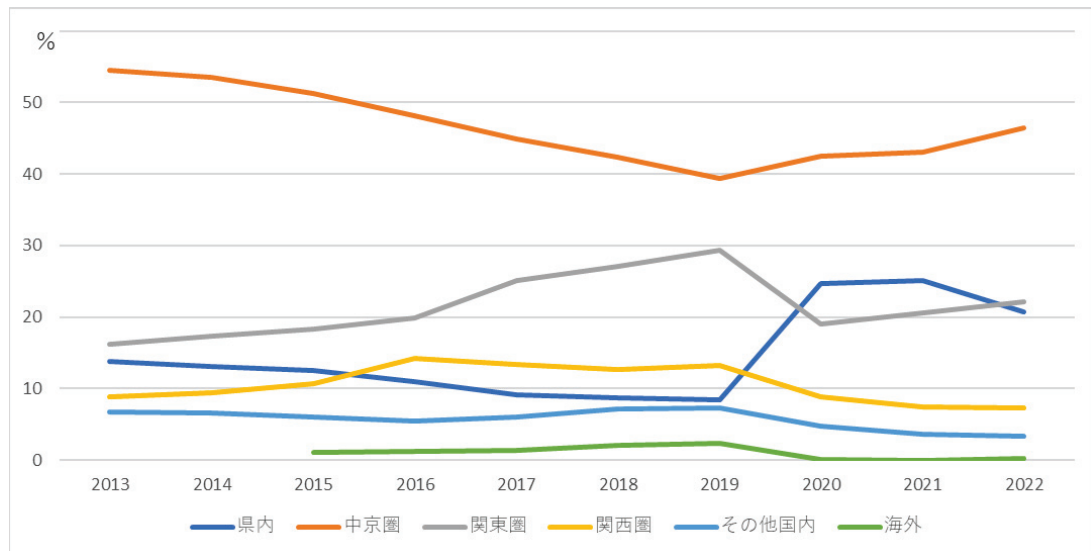


図4 阿智村の入込客発地別比率（阿智村資料より筆者作成）

トワーク上大きな変化がない時期における動きとして特筆すべき点であり、この要因の一つとして、前述した園原での星空観賞を中心とした観光需要が大きく寄与しているのではないかと考えられる。

この星空観賞をはじめとした地域観光づくりを強力に推進してきたのが株式会社阿智☆昼神観光局である（以下、「阿智☆昼神観光局」）。

### （3）阿智☆昼神観光局と星空観賞

阿智村では、2016年に観光協会を株式会社化して「阿智☆昼神観光局」として一元化し、観光推進の原動力としている。また、この株式会社は、村が60%を出資しているものの、地域の観光推進に思いのある事業者も出資しているのが特徴であり、観光を「地域の自分ごと」としてとらえて推進している証左ともいえよう。阿智村が観光を基軸に、官民一体で地域を盛り上げていこうという強い意志を感じるところである。

阿智☆昼神観光局は昼神温泉内に観光案内所を構えているが、この観光案内所にはカフェのほか散策用の自転車や星空観賞用の（防寒等用の）ウェアのレンタル等が可能であり、関心をもつ来訪者のタッチポイント・アクションポイントとなるような拠点づくりがなされている（写真1）。

また、村の中でも星をベースとしたブランディングに力を入れており、村役場前の「星の郵便ポ

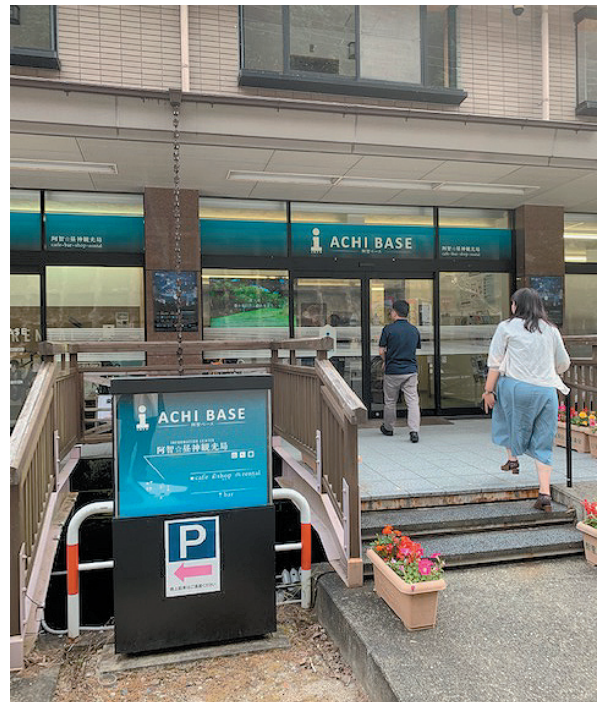


写真1 阿智☆昼神観光局“ACHI BASE（阿智ベース）”（筆者撮影）

スト」（写真2）をはじめ、星にまつわる企業との官民コラボレーションによるブランド展開や、女性に人気のキャラクターを使用した婚姻届、阿智村を舞台とした短編小説を著名作家に書き下ろしていただき、昼神温泉の入浴剤とセットでお土産として販売する「昼神温泉☆星紡文庫」など、来訪者の心に深く刻み込まれ、再訪し、誰かに伝えたいコンテンツ作りにさまざまな角度から挑戦している。



写真2 阿智村役場前の「星の郵便ポスト」(筆者撮影)



写真3 浪合パーク(筆者撮影)

そして近年の当地域の「売り」である星空観賞では、園原地区だけでなく村南部の浪合地区の「浪合パーク」でも体験が可能である(写真3)。実際に浪合パークで星空観賞会の現場を視察させていただいたが、筆者が視察した日には我々の鑑賞の前に観光バス1台で鑑賞に来ていたり、我々の視察時にも何組か数人単位の個人旅行者が鑑賞に訪れていた。プラネタリウムの投影画面に矢印が星を指して解説するのと同じように、星空を直接レーザーポインターで差して星座解説するなど(写真4)、自然の雄大さや、特に都会から来られた方にとっての非日常性を体験できるコンテンツとなっている。また、「星空」という、どの土地にでもあるのだが、この土地でしか味わえないという差別化と癒しを求めて来訪者が増えているのだと推察される。

一方、阿智村No.1の入込客数を有する昼神温泉郷は、2023年に開湯50周年を迎えた、旅館19軒・宿泊能力3,000人/日の阿智村最大の観光スポットである。観光局では、50周年を機に、リニア中央新幹線が開通するときに備えたまちづくりを進め、リニア時代に選ばれる観光地づくりを目指そうと取り組んでいる。また、2005年の愛知万博を



写真4 夜空の星を地上から指すレーザーポインターの光(筆者撮影)

境に旅行が団体から個人旅行化するなど、時代の変化に対応すべく、さまざまなマーケティング分析も踏まえた観光推進活動を行ってきている。なお、阿智☆昼神観光局は2018年に地域DMOとして認定され、国の補助金の獲得等も含めて地域の観光推進のコントロールタワーとなっている。

インバウンドについては、公共交通機関が少ないことから現在のところは大きくターゲットとして認識していないとのことであったが、隣の木曾地域では主にJRを利用したインバウンドが来ていることから、近隣地域との連携やストーリー作りを通じて、将来のリニア中央新幹線開通・三遠南信自動車道の全線開通を念頭に戦略構築をしていくのではないかとと思われる。そしてその連携を有用なものにするためにも、足元の地域づくりに磨きをかけてきたという印象を受けた。

#### （４）関係・交流人口の拡大と地域づくり

そんな昼神温泉でもコロナ禍により入込客の減少を余儀なくされたが、一部の旅館ではアフターコロナをにらんだ改装等の戦略的投資を実施するなど、前向きな地域ブランド構築に注力してきており、コロナ後の客足も想定したより早く戻ってきているということである。

観光は交流人口の増加に貢献していくが、交流人口を深めることが、将来のリニア時代の移住・定住を呼んでいくという意識も官民で共有している。また、村を挙げて観光を推進することを通じて、村の若年層に村の取り組みを知ってもらうことを意識し、村への関心が高まればシビックプライドも高まり、若年層が村外に出ていった時でも何らか村との関係を持ったり、戻ってきたいと思ってもらえるのではないかと考えながら動いているということであった。単に観光を観光だけにとらえず、他の社会課題の解決とも有機的に結びつけていくことが、これからのまちづくりの要諦であるのだと考えさせられる。

そして最近注目されている阿智の「星空」であるが、筆者も以前出張で名古屋駅を利用した際に、阿智の星空のポスターが通路の壁一面に掲載されているのを記憶しており、以降名古屋圏でも電車の吊り広告等で見かけるようになっていく。また、今般の調査研究を進める中で飯田市など下伊那地域に足を運ぶ機会も多いが、若い女性の小グループ旅行を見かけるようになってきているのも、「星空」目当てなのではないかと推察されるし、

実際に飯田駅前の観光案内所でもそのような問い合わせのやりとりも見かけた。

先述したように、阿智村と観光局では、この「星空」をコンテンツにさまざまな企業と星にまつわるコラボレーションを行い、婚姻届や「星空ビール」など企業とコラボレートした商品等を生み出している。村の広報をはじめとしたさまざまな媒体に取り上げられることで、観光ブランドと企業ブランドのwin-winの関係を構築しているとのことであった。特に企業には、自社ブランドの高揚とともに、官民連携という旗印にもなるようである。

これからの課題としては、政策的には観光地づくりとしているものの、村の施策として観光しかやらないと見えることもあり、観光振興独自の自主財源の獲得等が課題ということであった。また、観光に関する施設を域外の業者が設置していることもあり、地域による観光づくりというところも、しっかり作りこんでいく必要があるとのことであった。さらには、地域で使われていない観光資源の掘り起こしということで、たとえば村内の山の活用ということでグリーンツーリズムを推進したり、飯田市のDMOである株式会社南信州観光公社とも連携して、より広域での回遊を進めていくとのことであり、リニア中央新幹線開通に向けたより広域もにらんだ、下伊那地域の特長を生かしたコンテンツの整備・磨き上げを進めるとのことであった。我々も、名古屋圏・中部圏という、より広い地域の中での当地域のコンテンツが持つ独自性や、リニア時代の新たな地域の表現・地域ブランドの高揚という観点から引き続き着目していきたい。

以上

#### 【今回インタビューにご協力いただきました】



—阿智村のコンセプト—  
暮らす、生きる。阿智家族

阿智村長 熊谷 秀樹 氏